

介護認定者の施設入所 待機状況は 在宅での待機者は48人



田中 重光
(市民・共動クラブ)

議員 介護認定者の施設入所待機状況と今後の施設整備計画は。
健康福祉部長 平成二十三年二月に県が実施した調査によると、特別養護老人ホーム待機者は、要介護度が四と五の方のうち、在宅での待機者数は四十八人となつています。今後の施設整備は小規模特別養護老人ホーム

二十九床の新設、特別養護老人ホーム二十床の増床、認知症高齢者グループホームは十八床の増床を計画しています。

議員 施設入所に際し、公平さは保たれているか。

健康福祉部長 各施設が定める指針により、公平性が保たれていると思いますが、苦情があった際には調査し、指導したいと考えています。



老朽化が著しい上平団地

議員 市営住宅のうち上平団地と金崎団地は老朽化している。住民の安全及び安心確保のため建て替えるべきではないか。
建設部長 市営住宅の建て替えは市の財政状況や人口動態などを勘案し、

団地ごとに検討します。上平団地は老朽化が著しく、修繕が難しいため新規入居を中止しています。現在の入居者の対応等を考慮しつつ、廃止する計画です。

議員 生徒指導、教員、職員間の問題解決をするためのコミュニケーションはうまくいっているか。

教育長 学校が組織として機能し教育活動の成果を上げるためには、関わる人々とのコミュニケーションを大切にすることが重要と考えています。特に児童、生徒と教員の関わりについては、より丁寧なコミュニケーションが必要であると考えています。教育委員会としては、教職員や地域社会からの情報収集のあり方について検討するとともに、各学校に対しコミュニケーションの意義を再度確認し、学校教育の充実を図るよう指導、助言をしていきます。



江渡 信貴
(高志会)

議員 当初は、十和田市、三沢市が単独で中心市を目指していくと聞いていた。どのような経緯で二市が中心市となる複眼型になったのか。

企画財政部長 複眼型とは、隣接する二つの市が共同して中心市となり、圏域を形成していくものです。当初は十和田市と三沢市が別々に定住自立圏を形成する議論がなされていきました。しかし、関係市町村長からは、上十三地域は一本でいくべきとの意見がありました。これを受け、十和田市と三沢市で協議し、二市が共同で中心市となり、上十三地域は一本で定住自立圏構想を推進していくことになりました。

議員 災害発生時の避難所として、学校や公園

複眼型で中心市となる経緯は

上十三地域は一本でいくべきとの意見による

が指定されているが、本当に機能するか検証しているか。

総務部長 屋内避難所として学校と公民館、屋外避難所として公園等を指定しています。屋内避難所は、休日や夜間の災害時にも開設できるように、連絡体制を整備しています。また、宿泊可能な避難所は、総合体育センターと地域包括支援センターで、水道、トイレ、照明の充実を図ります。

議員 災害時には避難所となり、地域住民を受け入れる学校側では、大きな不安を抱えている。モデル地区を選定し、受け入れ時のマニュアルを作成する考えは。

総務部長 モデル地区を選定し、実際の手順や対応を確認することは効果的な方法だと考えています。



共同中心宣言式より

教育部長 災害時には、危機管理マニュアルに基づき子どもの安全を第一に対応しています。避難所を開設する際は、地域との連携も重要だと考えており、体制や役割について関係者と検討していきたいと考えています。